せいしんつうしん
聖心通信

札幌聖心女子学院
校長 齊藤 隆浩
第７号 2020 年 10 月 30 日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森２条 16 丁目 10 番１号 TEL 011-611-9231／011-676-7667(職員室直通)
URL https://spr-sacred-heart.ed.jp/ FAX 011-612-0980

10 月はマリア様の月でした。中２・高３の生徒たちは修養会を経て自分の心と向き合い、考えを深めました。冬の足音が近づいてきています。11 月は亡くなった方を思う月です。4 日(水)の追悼の祈りで、心を合わせてお祈りしたいと思います。

１１月の予定

	行　事	お弁当
1（日）	高文連英語弁論大会 石狩支部大会	
2（月）	授業研究ウィーク(～11/14)	要
3（火）	文化の日	
4（水）	追悼の祈り(中学:5校時／高校:6校時) 中1 JICAによる特別授業(6校時) 課題研究ミーティング	要
5（木）	中学 合同レク(3･4校時) 高1･高2 進研模試② 高1･高2 聖心女子大学web説明会 （希望者のみ、15:10～16:20）	要
6（金）		要
7（土）	高1･高2 小論文講習③(3校時) 東京地区web説明会 父の会聖書サークル(16:00～17:30)	※
8（日）	英検2次 A日程	
9（月）		要
10（火）	全校朝礼 尿検査③ 母の会聖書サークル(10:30～、Sr.田口)	要
11（水）	梅干し弁当の日	梅弁
12（木）		要
13（金）		要
14（土）	生徒家庭学習 小6対象入試対策講座②	
15（日）	英検2次 B日程	
16（月）		要
17（火）	母の会聖書サークル(10:30～、Sr.井出)	要
18（水）	聖フィリピン･デュシェーンの祝日 全校朝礼	要
19（木）		要
20（金）		要
21（土）	高1･高2 小論文講習④(3校時)	※
22（日）		
23（月）	勤労感謝の日	
24（火）	後期中間考査 高校①／中学①	※
25（水）	後期中間考査 高校②／中学②	※
26（木）	後期中間考査 高校③／中学③	※
27（金）	後期中間考査 高校④ 中1 哲学講座 高1 高等聾学校手話交流会	※
28（土）	姉妹会執行部企画 Movie Day 寄宿舎保護者懇談会(13:00～13:30) 高1･高2 保護者懇談会(13:30～15:00)	※
29（日）	待降節第一主日	
30（月）		要

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

Congratulations!!

◎ 読売新聞社主催
第 70 回全国小・中学生作文コンクール(北海道)

優秀賞　　中 2-1 **安倍 朱璃**さん

◎ 第 66 回札幌市読書感想文コンクール

札幌市長賞　　高 1-S **目良 茉莉香**さん

優良賞　　高 3-S **児玉 優子**さん

◎ 北海道牛乳普及協会・ホクレン農業協同組合連合会 主催
牛乳・乳製品レシピコンテスト実演審査

優良賞　　高 2-G **齊藤 りこ**さん
（265 作品中上位 10 作品に選ばれました！）

◎ 第 88 回 全国書画展覧会 中学校の部 書写の部
中学生 17 名が金賞を受賞しました！
（ほか、40 名が銀賞、13 名が銅賞を受賞しています。）

梅干し弁当募金

10 月 7 日(水)に行われた梅干し弁当募金では**総額 40,979 円**を寄付していただきました。Hunger Zero(ハンガーゼロ)日本国際飢餓対策機構「世界食料デー2020 募金」にお送りしました。ご協力ありがとうございました。

日本国際飢餓対策機構から感謝状をいただきました！

中２修養会・母の会修養会・高３修養会

10 月 15 日(木)・16 日(金)は中２の修養会でした。「友達の輪を広げよう」をテーマとして、Sr.竹内にご指導いただきました。友達との関わりを通して人との輪を広げ、神様の愛に気づくことができました。

また、イエズス会の林尚志神父様をお迎えし、15 日(木)には母の会修養会、16 日(金)には高３修養会が行われました。母の会修養会では「コロナの時が示す新しい希望を親子で共有する」をテーマに、「聴く」ことの大切さを熱く語っていただきました。今年度は新型コロナウイルスの影響でなかなか学校にお集まりいただける機会が持てませんでしたが、お母様方お一人ずつから思いを分かち合っていただき、温かな時間を共有することができました。ご参加いただいた母の会・白樺会の皆様に感謝申し上げます。

高３の修養会では、「感染症パンデミックを経ての新しい世界を創る希望と喜び」と題した神父様のエネルギッシュな講話から、様々なことに制限がかかる中でささやかでも新しいことに挑戦すること、スピードばかりが重視される中で立ち止まりゆっくりと周りを眺めることの大切さを学びました。

今月の聖句

わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれても、神からいただく住まい、すなわち天にある、人の手によらない永遠の家が備えてあることを、わたしたちは知っています。

コリント人への第二の手紙　５章 １節

コロナ禍に見舞われた私たちに、自然界は目の覚めるような紅葉で、「錦秋」の華やかさを贈ってくれました。夕焼けに映えるその美しさを眺めながら、小学生の時、アメリカ人のシスターから「美しい夕焼けを見ると、心が懐かしさでいっぱいになるでしょう。それは神様が私たちのために天国にすまいを備えていてくださるからです。」と言われたことを想い出します。

カトリック教会で死者を追悼する 11 月、帰天された方々のために祈りを捧げる時、慰めになるのは、天に神様が備えてくださる住まい、人の手によらない永遠の家という約束です。

地上で喪われた存在が、嘆く私たちを「天の住まい」から力強く励まし、支えていることを実感する時があります。地上で紡いだその物語は今も空の彼方で続いているのではと、その気配を感じる時があります。天から贈られるそのメッセージは「今を大切に生きてください」ということではないかと思うのです。

先日、真島先生が、信号無視のトラックによって命を断たれたご子息のことを分かち合ってくださった「いのちの大切さを学ぶ教室」の生徒たちの感想を読み、一人ひとりの言葉が心に響きました。「今のこの一瞬を大切に生きます。」「今、大切な人が近くにいることが当たり前と思わず、日々感謝を忘れずに生活していきたいと思います。」「この一瞬は帰ってこない、その都度、感謝を伝えていきます。」「いのちは人間に宿っていながらも、そのいのちに触れることはできないのだと思います。懸命に生きることに、大きな意味があると改めて感じました。」

11 月４日の（コロナ感染症対策で生徒と職員だけで行われる）追悼の祈りの集いが、天上と地上を繋ぐ祈りの道となり、天上に想いを届けることで、私たちに宿っているいのちが恵みを知る場となりますように。

［チャプレン Sr.田口保子］